

(講座) 臨床薬学 (研究室) 病院薬学
(氏名) 児玉幸修 (職名) 助教

【研究テーマ】

1. 医薬品の適正使用に関する研究
2. 遺伝子デリバリーに関する研究

【発表論文】

A 欧文

(A-a) 原著論文

1. Kurosaki T, Morishita T, Kodama Y, Sato K, Nakagawa H, Higuchi N, Nakamura T, Hamamoto T, Sasaki H, Kitahara T: Nanoparticles electrostatically coated with folic acid for effective gene therapy, *Mol Pharm.*, 8(3):913-9. (2011). (IF:5.4)
2. Kurosaki T, Yamashita Y, Aki K, Harasawa H, Nakagawa H, Kodama Y, Higuchi N, Nakamura T, Kitahara T, Sasaki H: Secure and effective gene vector of polyamidoamine dendrimer pharmaceutically modified with anionic polymer, *J Pharm Sci.*, 100(11): 4855-63. (2011). (IF:2.26)

B 邦文

(B-b) 総説・アブストラクト

1. 今村政信、黒崎友亮、児玉幸修、北原隆志、佐々木均、三重複合体による新規遺伝子ベクターの開発：コンドロイチン硫酸被膜型デンドリプレックス、*Drug Delivery System*, 17(3)、343 (2011).
2. 松永典子、北原隆志、柳原克紀、中川博雄、石原亜希子、児玉幸修、佐々木均、リネゾリド耐性・バンコマイシン中等度耐性黄色ブドウ球菌に感染した1症例、*TDM 研究*, 28 Suppl、s174 (2011).
3. 江頭かの子、佐々木均、児玉幸修、中嶋幹郎、樋口 駿、家入一郎：タクロリムスの血中濃度に及ぼすグレープフルーツまたはザボン摂取の影響、*TDM 研究*, 28 Suppl、s184 (2011).
4. 北原隆志、江頭かの子、浜田久之、児玉幸修、龍恵美、中村忠博、佐々木均、河野茂、「多職種連携による薬剤師のためのフィジカルアセスメントコース」の評価、*医学教育*, 42 Suppl、163 (2011).

(B-c) 著書

1. 児玉幸修、北原隆志：4 薬剤の調製 IV抗がん剤の調剤．（一川暢宏、中嶋幹郎（編）：臨床調剤学、南山堂、東京、pp.240-257 所収）2011
2. 児玉幸修、北原隆志：4 薬剤の調製 V麻薬等の調剤．（一川暢宏、中嶋幹郎（編）：臨床調剤学、南山堂、東京、pp.258-261 所収）2011

3. 兒玉幸修、北原隆志：4 薬剤の調製 IV 抗がん剤の調剤．（一川暢宏、中嶋幹郎（編）：みてわかる薬学 図解臨床調剤学、南山堂、東京、pp. 238-247 所収）2011
4. 兒玉幸修、北原隆志：4 薬剤の調製 V 麻薬等の調剤．（一川暢宏、中嶋幹郎（編）：みてわかる薬学 図解臨床調剤学、南山堂、東京、pp. 248-251 所収）2011

【学会発表】

B 国内学会

(B-b) 一般講演

1. 今村政信、黒崎友亮、兒玉幸修、北原隆志、佐々木均、三重複合体による新規遺伝子ベクターの開発：コンドロイチン硫酸被膜型デンドリプレックス、第 27 回日本 DDS 学会学術大会、平成 23 年 6 月、東京
2. 江頭かの子、佐々木均、兒玉幸修、中嶋幹郎、樋口 駿、家入一郎、タクロリムスの血中濃度に及ぼすグレープフルーツまたはザボン摂取の影響、第 28 回日本 TDM 学会学術大会、平成 23 年 6 月、広島
3. 松永典子、北原隆志、柳原克紀、中川博雄、石原亜希子、兒玉幸修、佐々木均、リネゾリド耐性・バンコマイシン中等度耐性黄色ブドウ球菌に感染した 1 症例、第 28 回日本 TDM 学会学術大会、平成 23 年 6 月、広島
4. 北原隆志、江頭かの子、浜田久之、兒玉幸修、龍恵美、中村忠博、佐々木均、河野茂、「多職種連携による薬剤師のためのフィジカルアセスメントコース」の評価、第 43 回日本医学教育学会大会、平成 23 年 7 月、広島
5. K. Egashira, H. Sasaki, Y. Kodama, T. Nakamura, T. Kitahara, M. Nakashima, S. Higuchi, I. Ieiri: Food-drug interaction of tacrolimus with pomelo, ginger, and turmeric in rats. 日本薬物動態学会第 26 回年会、平成 23 年 11 月、広島
6. Y. Kodama, T. Kurosaki, K. Egashira, T. Nakamura, T. Kitahara, H. Sasaki: Polyplex of pDNA with poly-L-lysine, poly-L-histidine, and γ -polyglutamic acid for biocompatible gene delivery system. 日本薬物動態学会第 26 回年会、平成 23 年 11 月、広島
7. 川鍋早紀、黒崎友亮、兒玉幸修、北原隆志、佐々木均、グリチルリチン被膜型肝指向性遺伝子ベクターの開発、第 28 回日本薬学会九州支部大会、平成 23 年 12 月、福岡

【研究費取得状況】

1. 関節リウマチをモデルとした局所型新規遺伝子医薬品の開発、日本学術振興会 科学研究費補助金若手研究 (B) (研究代表者)

【過去の研究業績総数】

原著論文 (欧文) 17 編 (邦文) 14 編

総説	(欧文)	0 編	(邦文)	0 編
著書	(欧文)	0 編	(邦文)	4 編
紀要・その他	(欧文)	0 編	(邦文)	0 編
特許		0 件		